

Small Talk台本②（第6時・第7時のはじめ5分）

進め方（文科省の型）：帯活動として2時間に1回。5年は先生の話聞くことを中心に、相手を替えて1～2分×2回。1回目のあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく**本当の気持ち・本当の出来事**を話す。

話題1 先生の友だち（第6時）

板書： This is my friend. He/She is ～. He/She can ～. [friend / kind の絵カード]

T Hello! Look at this. (絵を見せて) This is my friend, Yuki.

こんにちは！これを見て。友だちのユキさんです。

T She is kind. Very, very kind!

やさしい人です。とっても、とってもやさしい！

T And she can make cakes. Big cakes, small cakes... yummy!

それに、ケーキが作れます。大きいのも小さいのも…おいしい！

T Family? No! My friend. Your special person is OK, too.

家族？ちがいます、友だちです。みんなも「大切な人」ならだれでもいいんですよ。

S Nice! / I like cakes!

（反応が出れば十分。まだ話させなくてよい）

つまった子への助け舟：この回のねらいは英語ではなく安心。第5時にクイズを作った子は「家族じゃなくていいのかな」と迷ったまま大会に来る。先生が友だちを出して見せると、その迷いが1分で消える。

話題2 先生に質問を1つ返してみよう（第7時）

板書： This is my ～. He/She can ～. → Can he[she] ～? Really?

T Hello! This is my grandfather. He can ski very well!

こんにちは。これはわたしのおじいちゃん。スキーがとても上手です！

T (ここで だまって 3秒 待つ)

（何も言わずに待つ。この3秒が今日の主役）

S Really? / Can he swim?

（1つでも返ってきたら大成功）

T Yes, he can! Good question! One more question, please!

できますよ！いい質問！もう1つどうぞ！

T Next time is the test. I ask you one question. You can ask me, too!

次の時間はテスト。先生から質問を1つします。みんなからも聞いていいんですよ。

つまった子への助け舟：主役は3秒の沈黙。先生が待たないと質問は出てこない。1人でも返せたら全体で拍手して「これができたら名人」と言い切る——第8時のルーブリックaは、まさにこの姿を見ている。

中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

1回目のあとに全体で：「その人のこと、なんて聞く？」→絵カードを3枚見せて Can he ...? / Can she ...? を瞬時に言い分ける練習（30秒）→2回目へ。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello! / How are you?
くり返す	Soccer? Me, too!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow! / Really? / Good!
たしかめる	Pardon? / One more time, please.
さらに質問	How about you? / Why?
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・5年のSmall Talkは先生の話聞くことが中心。話題2で伸ばすのは先生の英語ではなく、子どもが「返す」経験の回数
- ・先生が紹介する人も家族でなくてよい。第6時に友だちを出しておく。「家族じゃなくてもいい」が実演で伝わる
- ・話題2で出た質問はその場で黒板に書き足す（Can he ...? / How old is he?）。テストの日まで貼っておく